

令和２年度病虫害発生予察予報２号（５月）

令和２年５月８日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積（地域名）
水稲	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u>
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	平年並(県下全域) 平年並(東、中西)、少(中央、西)
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>多(中西、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>多(中央、中西)</u> 、やや少(西)、 <u>多(中央、西)</u> 、やや少(中西)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ	<u>多(東、中央)</u> 、やや少(西) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(東) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>多(中央、中西)</u> 、平年並(東) <u>多(中央、中西)</u> 、少(東) 平年並(中西)、少(東、中央) 平年並(東、中央)、少(中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(東、中西) <u>多(中央)</u> 、やや少(東)、少(中西)
促成トマト	葉かび病 うどんこ病 黄化葉巻病	<u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> 少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています

I 気象予報（高松地方気象台 4 月 30 日 発表）

5 月 2 日から 6 月 1 日までの天候見通し

＜予想される向こう 1 か月の天候＞

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 50％です。

週別の気温は、1 週目は、平年並または高い確率ともに 40％です。2 週目は、平年並または高い確率 40％です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	20	30	50	
		降水量	30		40	30
		日照時間	30		40	30

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1 週目	四国地方	20	40	40
2 週目		20	40	40
3～4 週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：5 月 2 日（土）～6 月 1 日（月）

1 週目：5 月 2 日（土）～5 月 8 日（金）

2 週目：5 月 9 日（土）～5 月 15 日（金）

3～4 週目：5 月 16 日（土）～5 月 29 日（金）

II 病害虫発生予想

1 水稲の病害虫

1) イネミズゾウムシ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 南国市の防除適期決定圃では、4 月下旬から発生が見られている。5 月の気温は平年よりも高めと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤を施用していないほ場で、発生が多い場合は本田防除を行う。

2) スクミリンゴガイ

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 暖冬であったことから、冬期の死亡率は低く、既発ほ場での越冬量は多いと考えられる。

(2) 5月の気温は平年よりも高いと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。

2 かんきつ類の病害虫

1) 黒点病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 前作の巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも、ほとんどのほ場で発生が見られていたが、5月の降水量は平年並と予想されているため、平年並の発生になるものと考えられる。

対 策

(1) 感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

発生量：平年並（東部、中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

(1) 4月のフェロモントラップ調査（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）による誘殺数は、安芸市で平年よりも多く、須崎市で平年並、そのたの地点では少なかった。

対 策

(1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため、園地での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量：やや多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年よりもやや多く、その他の地域は平年並以下であった。発病程度は中央部と中西部で平年よりも高く、西部では低かった。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で平年よりも

多く、その他の地域は平年並以下であった。発生程度は中央部と中西部で平年よりも高く、西部では低かった。

- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年よりも高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

発生量：多（中西部、西部）、やや多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部、西部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発病程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域は平年並であった。
- (2) 4月の調査では、先月以降も県下全域で新たな発生が見られている。また、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生面積は、中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、西部では少なかった。
- (3) 気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの密度が高まると見込まれることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行うとともに、作の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量：多（中央部、中西部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、中西部でやや多く、西部では少なかった。発生程度は県下全域で平年並以下であった。
- (2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、作の終了時には分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

5) タバココナジラミ

発生量：多（中央部、西部）、やや少（中西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県中央部と西部で発生が見られた。発生面積は県中央部で平年よりも多く、西部でやや多く、発生程度は西部で平年よりも高く、中央部ではやや低かった。
- (2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（東部、中央部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県東部と中央部で発生が見られた。発生面積は東部で平年よりも多く、中央部でやや多く、発病程度は両地域ともに平年よりも高かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年よりも高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量：多（中央部、西部）、平年並（東部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。また、発病程度は中央部で平年よりも高く、西部でやや高く、東部では低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと見込まれるが、発生の多い地域では現在の状況が続き、多発傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県下全域で平年よりも多かった。また、発病程度は中央部と西部で平年よりも高く、東部では低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと見込まれるが、現在の発生が多いことから、多発傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：やや多（西部）、平年並（中央）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。また、発生程度は西部で平年よりも高く、その他の地域は平年並以下であった。

(2) 気温の上昇にともない増殖が盛んになる時期ではあるが、ほとんどのほ場でタバコカシキメ等の天敵が定着しているため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（中央部、中西部）、平年並（東部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と中西部で平年よりもやや多く、東部ではやや少なかった。また、発病程度は県下全域で平年並以下であった。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年よりも高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量：多（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と中西部で平年よりも多く、東部で少なかった。また、発病程度は中西部で平年よりも高く、中央部でやや高く、東部ではやや低かった。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

発生量：平年並（中西部）、少（東部、中央部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られたが、両地区ともに発生面積、発病程度は平年並以下であった。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少なく、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) タバココナジラミ

発生量： 平年並（東部、中央部）、少（中西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。各地区ともに発生面積、発生程度は平年並以下であった。

(2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量： 多（中央部）、平年並（東部、中西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりも多く、その他の地域では平年並であった。また、発生程度は中央部で平年よりも高く、東部でやや低く、中西部で低かった。

(2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量： 多（中央部）、やや少（東部）、少（中西部）

根 拠

(1) 4月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部で平年よりも多く、東部でやや少なく、中西部で少なかった。また、発生程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域では低かった。

(2) 気温の上昇にともない本虫の増殖が盛んになるため、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。ただし、タバコカスミカメなどの天敵が定着しているほ場では減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量： 多（中央部）

根 拠

(1) 4月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度も高かった。

(2) 5月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、病勢の進展は少ないと見込まれるが、現在の発生が多いことから、多発傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生面積は平年並であったが、発生程度は低かった。
- (2) 5月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年よりも高いと予想されているため、病勢は進展し、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）の2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

3) 黄化葉巻病

発生量：少（中央部）

根 拠

- (1) 4月の調査では、発生は見られなかったが、媒介虫であるタバココナジラミの発生は低密度ながら平年よりも多かった。
- (2) 気温の上昇にともない本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となるものの、本病の発生が見られてないことから、この状態が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.